

生産性向上支援訓練カリキュラム

機構施設名：秋田職業能力開発促進センター

実施機関名：有限会社ネオリブラ

A. 生産管理	原価管理とコストダウン
生産・開発計画	

コースのねらい	低コスト化と生産性向上を目指して、原価管理をコスト(費用削減)と生産性(業務効率向上)の2軸で捉え、企業収益向上のポイントを習得する。
---------	---

	「基本項目」	「主な内容」	訓練時間(H)
基本要素	1 原価管理とは	<ul style="list-style-type: none"> ・ 原価管理の基礎知識 「原価とは何か、原価管理とは」、定義と目的を再確認します。また製造原価は、大きく直接費と間接費に2類されること、および数年にわたり使用できる機械設備については減価償却で費用計上すること、など、実績コストを把握するための区分けの視点について確認します。 ・ 損益分岐点と財務諸表 ものづくりの実態を、結果としての数値で把握することで、現状を客観視できることとなります。また費用には、変動と変動しにくい2つの性質のものがあることを理解します。さらには、現状が好ましい状態なのか、よりよくできることがあるのか、「分析」を加える必要があります。損益分岐点などの「分析」視点と今後よりよくしていくための計画立案ポイントを学びます。 	1.5
	2 コスト削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ コスト削減の着眼点 ものづくりで利益を創出するために必要な活動にかかるすべての費用を「コスト」と呼びます。ここでは、直接コストと間接コストをできるだけ抑えていくための切り口について習得します。 ・ コストの「見える化」 現状を数字で把握し、削減のための重要な活動を見定めたならば、次は、それが効果的に進むような仕組みを考えます。そのひとつの重要な視点が「見える化」です。目で見える管理の基本を再確認し、自社で活用できる「見える化」の具体策について探求します。 	1.5
	3 IE手法による標準時間設定方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ IE(Industrial Engineering)とは 生産性とは、Output/Inputの基本視点で実態をつかむことです。IEとは生産工学、つまりは、生産性を現状よりも継続的に高めていくアプローチを指します。ここでは、現場で使える(すでに活用している)IE手法について、代表的なものをいくつか学びます。 ・ 標準化と標準時間の設定 「標準」とは、特定の集団や活動にある「共通の代表的な特徴や属性」のことです。繰り返し行われる特定の活動に対し「標準」が示されることで、あるべき姿やよし悪しの基準となります。ここでは、ものづくりに要する時間の基準となる「標準時間」の設定方法について習得します。 	1.5
	演習	ケーススタディで、損益分岐点・変動費・固定費について学びを深めます。	0.5
	演習	自社で取り組めるコスト削減と見える化の素案について、個別ワークと全体発表で情報共有します。	0.5
	演習	標準時間の設定により見出せる改善策の対象や案について全体討議し理解を深めます。	0.5